



前号に引き続き1月6日から3月18日まで実施されたカナダ短期留学に参加した現在高校2年生になっている生徒2名のレポートをご紹介します。

カナダ留学を終えて

高校2年1組 野村航大

カナダでの三ヶ月間で多くの経験をしたが、現地校の生徒たちから一番刺激を受けた。もちろん彼らの流暢な英語は大きな刺激だったが、それよりも一人一人が物事に対する特有の考え方をしっかり持っていたことに驚いた。一番印象的だったのは友達の精神障害に関する発言で、彼女が過去に精神障害に苦しんだという経験談を話していたのを鮮明に覚えている。彼女の経験を聞いたクラスの人達がみんな拍手をしていたのをみて、カナダの学校ではどんなことでも発言しやすい環境が整っているのだと感じた。実際僕が発言した時も、言ったことを理解しつつ違った考え方を示してくれる人もいて、授業中にたくさん討論することができ、充実した時間になった。もう一つ驚いたのは、カナダ人は自分達の国がとても好きだということだ。家にカナダの国旗を飾っていて、日頃から「CANADA」と書いてある服を着ている人が多かった。その他にも、将来軍隊に入隊したい友達が多かった。その理由は将来自分の家族を守るようになりたいからだった。今まで仕事というのは自分の興味関心を追求し、家族を養えるほどの収入を得るために就くものだと思い込んでいた。しかし軍隊志望の友達と話している内に、彼らは軍事行動への個人的な興味関心よりも、母国や周りの人達の役に立ちたいという強い思いの方が大切にしているのだとわかった。カナダ人にとっては国のために生きて、働くことが何よりも名誉なことらしい。一方日本では立派で尊敬される生き方というのは人によって変わってくると思う。このような人生観の違いがカナダ人と日本人の考え方の違いを生んでいるのだと気づいた。



母国への愛国心がとても強いためか、現地の生徒はみんな他国に対するある程度の偏見を持っていた。正直に言うと一部の国や地域に対するひどい偏見を持つ生徒も数人いた。偏見の対象とされていたのは主に黒人だったが、カナダでは黒人が偏見によって差別されているというわけ



はなかった。学校の廊下でいくつかの友達の集団をみても、黒人の生徒は他の生徒と同じように楽しそうに喋っていた。これは自分の推測だが、カナダ人は最初偏見を持っているものの、彼らと友達になると彼らを黒人として認識する代わりに、一人の友人として認識するようになるのだと思う。アメリカを嫌う生徒が多かった印象を受けた。その理由は、“麻薬密売人ばかりで怖そう。”や、“トランプ大統領が嫌い。”などと様々だったが、

ほとんどの人がカナダとアメリカを似ている国だと思われたくないと感じているように思えた。僕は小学生の頃ニューヨークに四年間半住んでいたが、アメリカと比べて人も文化も環境も、カナダはかなり異なっている国だと感じた。ただ、アメリカ人とカナダ人はどちらも日本人に対してとても親切で居心地のいい環境を作ってくれる人達だと改めて実感した。アメリカに居た間僕は日本人だからという理由で差別されることは一度もなく、毎日現地の人と同じように楽しく暮らすことが出来ていた。今回カナダでも留学生として周りから区別されることもほとんどなく現地の生徒たちと過ごすことが出来た。また彼らとはSnapchat というSNS を通じて、帰国して一ヶ月経った今でもほとんど毎日話している。最後にホストファミリーについてだが二人とも優しく接してくれて、本当の息子のように接してくれたので、ホームステイ生活はとても居心地が良かった。ホストマザーは親戚との交流をとても大事にする人だったので親戚に会う度に僕のことを東京からの留学生だと紹介してくれた。ホストマザーの親戚を大切にする姿をみて、自分も家族や親戚の人をより一層大切にするべきだと感じた。

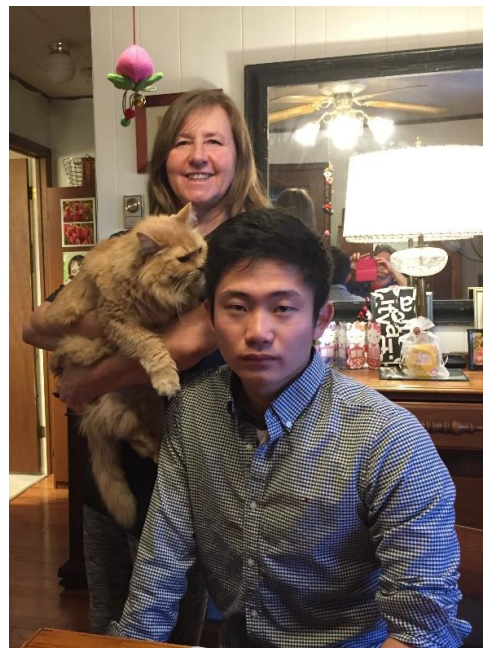
カナダでのたくさんの出会いによって気づくことは多かったが、今回の留学を通して本当に色々な人にサポートしていただいていることも改めて実感した。カナダで得た刺激は周りの支えがなければ絶対に経験できなかったと思う。今回サポートしていただいた人たちへの感謝を忘れずに、新たに得た経験や刺激を今後にも活かしていきたい。将来的にはまだ味わったことのないような経験を求めてまた留学し、現地の人達に新しい刺激を与えられるような人になりたいと思う。

カナダ留学の成果

高校2年5組 中西 巧

今回、カナダ留学に参加した目的は2点あります。1つ目は大学受験前にカナダの現地の学校で授業を受けたり、カナダにいる人と英語で会話をしたりする事を通して英語力を上達させることです。現地の学校で受けた授業内容は海城で履修した範囲ではありましたが、英語でそれらを理解するのは容易くはありませんでした。最初の方は教師の口頭の説明はほとんど理解できず、配布されたプリントに書かれていることを読み解く毎日でした。しかし学校でできたカナダ人の友達やホストファミリーとの会話やカナダで過ごすうちに耳が慣れてきて、ある程度は理解できるようになりました。

2つ目はカナダで色々な経験をしていくことです。僕は海外に行ったことがなかったので、行くまで海外の生活習慣に関して全くわかりませんでした。現地に行ってみると新しい出会いと発見の日々がとても新鮮でした。何をしたいかわからないときもありましたが、ホストファミリーや現地の人々はとても優しく教えてくれてとても助かりました。日本では部活や勉強で忙しいため、日本では出来ないスキーやスノーチュービング、カーリングも出来てとても楽しかったです。またナイア



ガラの滝にも1度行き、カナダの雄大な自然を見ることが出来ました。

僕が目的としていた2点はある程度は達成出来たと思います。この経験を日本での生活に活かしていきたいと思います。最後になりましたが、今回の留学の手助けして下さいましたホストファミリーをはじめとする皆さんに感謝いたします。有り難うございました。

セントジョンズベリーアカデミー訪日団来校

既に本校公式HPでもご紹介しましたが、本校姉妹校で中学海外研修でお世話になっているアメリカバーモント州にあるセントジョンズベリーアカデミー（S J A）より先生2名、生徒7名が4月18日（水）にご来校されました。今回の7名の生徒諸君はS J Aで日本語の授業を選択しているのですが、アメリカの高校で外国語の授業として日本語が設定されているのはかなり珍しいことです。ある意味マイナー言語である日本語を選択できるカリキュラムになっているということはそれだけ好奇心旺盛な生徒が毎年コンスタントにいてそのニーズに応えるだけの態勢が整っていることを示していて、とてもうらやましく感じます。当日は1時間目の時間に校内をご案内しました。図書館には以前にS J Aから寄贈された本があるのを皆さんご存知でしょうか。今回も何冊か新たに頂戴した図書がありますのでぜひ手に取ってもらえたらと思います。食堂にご案内した時にはこんなことが話題になりました。本校では全学年昼休みの時間が同じで40分間の休み時間に生徒が集中して食堂がとても込み合うと紹介しますと、S J Aでは昼休みの時間帯が5つあり分散して昼食を取るシステムになっているとのこと。このようなフレキシブルな時間の使い方も新鮮な発想だなと毎回感心させられます。2時間目からは高校1年生の教室で授業体験をしていただき、放課後には生徒同士の交流会も開かれ、わずか1日ではありましたが和やかな時間を過ごしていただくことができました。ご協力いただきました先生方と生徒諸君に御礼申し上げます。



夏のイベント紹介 国内で学ぶ

① HLABサマーキャンプ

期間：2018年8月14日(火)～8月22日(水) 8泊9日の合宿形式

場所：東京都文京区（宿泊施設：鳳明館 森川別館【予定】）

対象：高校生 80名

費用：10万円 + 税

課題：英文、日本語による選考課題があります。

HLABとは（HLAB公式HPより引用）

日本全国の高校生が、自分の関心を突き詰められる、主体的な進路選択、将来設計を行うために。H-LABは、「世代を越えた交流」を基軸に、偏差値にも、ブランドにもよらない、進路指導の新しい形を提示する教育プログラムです。ハーバードをはじめとする世界を代表する大学の学部生に対して、知的、社会的、文化的に日本を体験し、教育に携わることを通してリーダーシップや異文化理解を深める機会を提供する、国際交流プログラムとしての側面も有しています。

H-LABの中心となるプログラムは、高校生を対象としたサマースクールです。ハーバード大学のリベラル・アーツ教育をモデルとした合宿形式のプログラムを通し、参加者に大学での学びを実体験してもらうとともに、大学、選考、キャリアといった将来の選択を行う上で有益な情報源と、必要なサポートを提供します。

昨年も本校から何名かの高校生がこのキャンプに参加して刺激を受けてきました。実は本校卒業生の早稲田大学3年生星野新君がHLABの運営委員を務めています。そこで本校の生徒を対象に校内で説明会を実施します。関心のある生徒諸君（実際のキャンプには参加できませんが中学生でも結構です）はぜひ参加してみてください。

説明会日程

5月26日（土）午後1時30分～ 合同23W教室にて

中間考査終了の翌日です。しばらく先のことなので忘れてしまう人もいるかもしれませんが、興味ある生徒諸君は予定を空けておいて下さい。

② 第25回日韓高校生交流キャンプ（日韓経済協会 主催）

期間：2018年7月29日（日）～8月2日（木）4泊5日

場所：広島県広島市 世羅別館にて 日韓の高校生各40名が参加。

対象：高校生

参加費用：1万円（但し、集合・解散場所までの交通費は自己負担）

内容：日韓両国の高校生が10人前後の混成チームに分かれ、広島にある産業施設で日本経済現場体験を行い、その体験学習を基に、世界平和につながる日韓両国で通用する新たなビジネス案を企画・発表します。

本校からは2名参加することができます。応募者が3名以上の場合には選考します。

詳細を知りたい生徒諸君はグローバル教育部（3号館1階）に来て下さい。

校内で応募の意思表示をしていただく締め切りを5月10日（木）の放課後までとします。特に指定の用紙はありませんので、B5サイズの紙にクラス・番号・氏名を明記の上、日韓高校生交流キャンプ参加希望と書いてグローバル教育部まで提出して下さい。選考後に本校から正式に申し込むことになった生徒には応募用紙とテーマ作文用紙を後日配布します。